そなえあれば
うれいなし

西淀 防災 Times

Vol. 6　令和 4 年　11月 8 日発行

PTA 主催 特別講演会「学校と地域が協働する福祉防災～児童生徒と教職員がみんな助かるために～」

去る 11/1㈫大阪府教育庁 学校防災アドバイザーの湯井恵美子(ぬくいえみこ)氏をお迎えして特別講演会を行いました。過去の大地震で、障がい児者が受けられた支援や受けられなかった支援について、保護者の方たちが考えておかなければならない事や、本校の防災の取り組みについてを検証し今後の課題を浮き彫りにして下さいました。

本校の防災の取り組みについて

本校では現在、二次避難先に「西淀工場」と「千船病院」を設定しています。湯井先生からは「西淀工場」は二次避難先として完璧ではないとのご指摘を受けました。理由は、「西淀工場で１週間の避難生活ができると思いますか？」との観点からです。現状、本校の防災 PT では西淀工場で１週間に及ぶ避難生活を送る想定にしていない為二次避難先を西淀工場でいける、と考えていました。その見立てが甘かったことを突き付けられたように感じています。湯井先生曰く、南海トラフ巨大地震が関西地区に起きた場合、津波で浸水したエリアは基本的に１週間水が引かないと試算されており、幹線道路は一般車両の通行は止められ緊急車両のみの通行になるそうです。そのため、徒歩圏内の保護者が数名迎えに来られるかもしれませんが、児童生徒の大半が帰宅できなくなります。そのような理由から宿泊施設がない西淀工場での避難生活は現実的ではないのではないか、とのことです。このようなご指摘を受け、防災 PT ではどのような体制を組みなおせられるのか今後考えていこうと思います。但し、５mの津波から子ども達と先生方の命を守るには、高い場所へ逃げる必要があり、西淀工場以外の適当な場所がないのも現実です。まず私たちにできること、高い場所に逃げ津波の恐怖から子ども達の命を守ること。しかし、命を守るために先生たちがヘトヘトに疲れはててしまわないようにすること。先生たちの計画では西淀工場の３階部分に行くだけで疲れ果ててしまいます。計画の見直しが必要です。大阪市を巻き込み、西淀工場に本校の避難物資を置かせてもらうよう折衝していくことが必要とのことです。

校舎内の整備面では、１階２階の廊下に並べている SRC や立位ボード等について、非常に危ない状況であることをご指摘頂きました。１台１台をベルトで固定する等地震が発生した際に散乱しない工夫が必要とのことです。また、教室内で子ども達が車いすやバギーに乗った状態でいくらブレーキをかけても、押さえている先生ごと振り倒される可能性が高いことがわかりました。これらの不安を解消するためにはベルト等を準備する必要があります。PTA さんとも協力して校内の整備を行っていこうと思います。

保護者の皆さんへのお話

学校の取り組み部分以外に、ご自身も障がいのあるお子さんをお持ちで元吹田支援の PTA 会長、大阪府立支援学校 PTA 協議会会長のご経験から、保護者の皆さんの心に迫るアドバイスをされておられました。学校で被災した場合、自宅で被災した場合、様々な状況を考えていざという時に活用できるよう準備が必要。（これは、私たち教職員も同じですよね）子ども達の持ち物（防災袋も含めて）も見直す必要が出てきます。学校を卒業した後に、子ども一人ひとりの「個別の避難計画」の準備をした方が良いですよ、や地域の民生委員さんを確認しておいた方が良いですよ等々、保護者の皆さんも真剣にメモを取りながら傾聴しておられました。